

「神と主から恵みと平安がありますように」エペソ1：1、2 19・4・28

緒論：①獄中書簡。②真筆年代、AD（アヌウ・ダミナイ＝主の年）61年頃。③真筆場所、ローマの獄中。④執筆事情、教会に異端が入り、混乱が生じた。④主題＝「神による新しい共同体（教会）」。キリストにおける統一、神の支配の輝かしい計画を示す事。

I 「神のみこころによる（パウロは偽使徒ではない。聖なる人柄と実で判別される）キリスト・イエスの使徒（遣わされた者の意。キリストの代理人として派遣される使者）パウロから、キリスト・イエスにある忠実なエペソの聖徒たちへ」：1。

II まず神の恵みを知る。「私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたの上にありますように」：2。祝祷をもって書き始める。獄中にいても！単なる挨拶以上のもの。パウロのメッセージの要約でもある。「恵みと平安が…ありますように」。この順番に深い意味がある。平安と恵みではなく、恵みが先。パウロのすべての手紙は、この順番！お気づきだったでしょうか。神の先行する恵みがなければ、真の平安はない。

1. 「私たちの父なる神」→天地万物の創造主なる偉大な神が、何と私達の「父なる神」となって下さる恵み！御子イエスを信じる私達を神の子供として下さる（ヨハネ1：12）。偉大な神が私達の父となられる。御父は、御自身の子供とされた私達の事を片時も忘れず見守り愛される。「天におられるあなたがたの父が、どうして、求める者たちに良いもの（真に益となり必要なもの）を下さらないことがありますよう」（マタイ7：11）。また、御子の姿に成長するように愛をもって訓練し育てて下さる（ヘブル12：5-11）。

2. 「主イエス・キリスト」→「主」：原語「キュリオス」（語源「権力、権威」の意＝主人、所有者。旧約聖書に出て来る神である「主」。ヘブル語でヤハウエ（神と神の民との密接な関係、契約関係を示す。神の御名、ヤハウエ→由来「わたしはある」出3：14、永遠の自存者、不変の絶対的存在、私達人間を救い、助け、祝福し、契約を守られる方）。主権者である神。真の神である支配者。「イエス」（「主は救い」の意。お名前）。「キリスト」（油注がれた方、メシヤ、救い主。職名）。旧約聖書の神、主は、三位一体の神、主。

3. 「と」に意味があります→「父なる神」と「主イエス・キリスト」は同格。御父と御子と御聖霊は、同等の神であり、かつ一体のお方。

III 「恵み」。福音の中心。父なる神と主イエス・キリストは、恵みの与え主、恵みの神。「恵み」＝原語：カリス。好意、愛顧、寵愛、恵み、恩恵の意。恵みとは、行いへの報酬としてではなく、神の一方的な好意、賜物。イエス様を救い主、主と信じる信仰のみによって与えられる神の救い（罪の赦しと永遠の命）の恵み。主を信じた時だけではなく、その後も与えられ続ける神の恵み。主を信じた時だけ恵みがあり、後は自分の力で生きるのではない。神の恵みで救われスタートし、神の恵みで信仰生活を続け、生涯の終わりに死を迎え恵みの主のもとに行く、再臨の恵みの主を迎える。恵みで始まり、恵みで支えられ、恵み主に至る！主の十字架の赦しの恵みと主の復活による死への勝利の恵みにより「平安」が与えられる。

1. 神と主の恵みの大きさは、自分自身の罪深さの自覚に比例して実感できる。キリスト者の成長とは、自らの罪の自覚とその自分への神の恵みの自覚が深まる事。「私たちが滅びうせなかったのは、主の恵みによる。主のあわれみは尽きないからだ」哀歌3：22

2. 主の恵みの大切さ。「私の子よ。キリスト・イエスにある恵みによって強くなりなさい」Ⅱテモテ2：1。「イエス・キリストの恵みと知識（神を深く知る）において成長しなさい」Ⅱペテロ3：18。神の先行する恵みの自覚のない信仰生活は、律法主義となり、喜びのないものとなる。一生懸命活動しても神の喜ばれる実を結べない。しかし、主が良くして下さった主の恵みを数え、感謝し、信仰生活をする時、霊的な泉から、愛、喜び、平安な実が結ばれる。「奉仕をしてやる！」という喜びのない高慢な態度ではなく、「奉仕をさせていただける恵みを感謝します」という謙遜な芳しい香りの信仰生活が生まれる。※証し：ある助言。

みことばから教えられた牧会のあり方＝先行する主の恵みへの感謝から生まれる奉仕、奉げ物、伝道、交わり、分かち合い、祈り合い支え合う恵み。その恵みに集められる人々。

Ⅳ「平安」。御父と御子は平安の与え主。平安、平和の神。「平安」＝原語：エイレーネー。平和、和睦、平安の意。「平安」の前に「恵み」が記されている事に意味がある。「平安」は、神の救いの恵みの結果として与えられるもの。他の手紙もこの順序（恵みと平安）。この「平安」とは、ただ静止した状態の平安のことではなく、神の恵み（主の十字架と復活）によって勝ち取られ、与えられた「平安、平和」。私達には、生まれながらに心に罪があり、争い、憎しみ、不和を持っている。しかし、それらの罪を背負い、主が十字架につけられたので、その主を信じる時、罪が赦され、まず①神との「平和」、和解が与えられる。次に②自分との平和。私達の心に真の「平安、平和」が与えられる。神が愛され赦された自分自身を自分でも受け入れる自己受容の平和。自己受容ができていないキリスト者も多い。失望せず祈りましょう。「キリストがあなたがたを受け入れてくださったように、あなたがたも互いに受け入れなさい」（ローマ15：7）。※恵みの証し。神が赦された自分を自分でも赦していないと人を赦すのは難しい。神が赦されても自分を責め続ける事がある。神が愛し赦されている自分を自分でも自己受容できるように祈りたい。主が与えられる平安は、世が与える平安とは違う。世の平安は、うまくいっているからの平安。それは、何か一つの問題が起きると吹き飛んでしまう平安。しかし主は、私達がどのような状況にあろうとも真の平安を与えて下さる（ヨハネ14：27）。罪が赦される平安、愛されている平安、すべての状況を神が支配しておられる事を認めることによる平安。※私が味わった真の平安。③人との平和。主に罪を赦され、主の愛で人を赦し、和解し、人々の間に平和が生まれる。

6. 「から」→パウロ（人間）からではなく御父と主イエスから。「恵みと平安」が与えられる秘訣は、与え主なる神との正しい関係。主につながり、主にとどまり続ける事。

Ⅴ 神の先行する恵みと平安、平和を受け続けている私達の応答。 1. 神への感謝。2. 人への感謝。執り成しの祈り。3. 私達も、まず、神の恵みにあずかり、残された人生で、自分にできることから、祈りつつ素晴らしい救いの福音を広める事に参加ができますように